

【 議 事 録 】（概要）

実施日時 令和7年7月7日（月） 18:30～20:45

会 議 名	越谷市総合振興計画審議会 都市基盤整備部会 第1回会議	会場	越谷市役所エントラン ス棟3階会議室3-1
件名/議題	1 開会 2 議事 (1) 第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）について 3 その他 4 閉会	資料：(■有 □無)	
出 席 者	<委 員>（6人） 〔2号委員〕 川島衛委員（部会長）、中村孝委員、宮崎幸次委員 〔3号委員〕 戸張隆委員、福島茂樹委員 〔4号委員〕 長野博一委員（副部会長） <説明員>（14人） 野口政策課長、古海南越谷にぎわい推進室長、鎗田資源循環推進課副課長、 西田道路総務課長、厚沢道路建設課長、木下河川課副課長、山本下水道経営課長、 篠崎下水道事業課長、戸張維持管理課長、戸張都市計画課長、浜野市街地整備課長、 佐藤公園緑地課長、田中開発指導課長、木村建築住宅課長 <事務局>（4人） 黒澤政策課副課長、大久保政策課主任、阿彦政策課主任 策定業務支援者：NTT東日本関信越（1人）		
欠 席 者	関根久治委員、山口健吉委員		
傍 聴 者	なし		

●合意・決定事項

別紙（☒有 ☐無）

内 容
・ 会議の中で出た意見を部会報告書（案）に反映することとし、次回会議で審議することとした。

越谷市総合振興計画審議会 都市基盤整備部会 第1回会議 会議録概要

<越谷市総合振興計画審議会 部会第1回>

1 開会

- ・川島部会長から開会のあいさつ
- ・事務局から第1回会議の議事録が確定した旨の報告

2 議事

- ・傍聴者の確認（傍聴者なし）

（1）第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）について

会長から審議の進め方について、大項目ごとに質疑応答、意見交換を進める旨委員に確認し、了承を得た。

事務局から、部会での審議の流れ、【資料10】第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）の分野別計画（大綱3）、審議のポイント等について説明を行った。

①大項目3-1について

（委員） めぎす姿について、安心して住めるまちづくりという視点から見ると、近年甚大な被害が生じている内水氾濫について、記載がないため、追記してほしい。

（委員） 八潮市の道路陥没などを見るように、インフラの管理が担保されていることが重要であると思う。これらが計画的に管理された安全安心なまちという表現を加えるといい。

（部会長） いまいただいた2つの意見は、大項目3-4の中に含まれているため、後ほど内容をご確認いただき、審議をお願いしたい。

（委員） 69ページ「公共交通の満足度」について、鉄道・バス・タクシーがあると思うが、市政世論調査ではどのような聞き方をしているのか。鉄道は満足度が高くても、バスは低いなどの状況もあり得ると思う。

（都市計画課） 市政世論調査において、鉄道・バス・タクシーそれぞれの利用頻度や満足度について調査している。目標値については、これらを平均した数値として設定している。

（委員） 平均値だけでは、個別の満足度が見えにくくなる可能性があるため、目標値のみではなく、市民の困りごとに目を向けるようにしてほしい。

また、10年ごとに実施されているパーソントリップ調査や5年ごとの国勢調査などと整合を図りながら進ちょくを管理してほしい。

（事務局） いただいたご意見は参考にさせていただきます。

（委員） 鉄道は一自治体で大きく変えていくことは難しいと思うが、バス路線は検討の余地があると思う。特に地域で言われるのは、「病院に行くバスがない」ということである。せんげん台駅から市立病院へ向かい、南越谷駅に到着するような需要と利便性を満たしたバス路線がいいと考える。これまでも社会実験等が行われてきたが、利便性が低く成果が上がらなかったと考えている。免許返納を行った高齢者も増えているなかで、駅と駅を結び、病院等の拠点を通るようなバスは検討していないのか。

（都市計画課） 地域公共交通計画に基づき計画的に推進しているところであり、ご指摘のとおり、網目のように公共交通網が張りめぐられていることが理想であると思うが、現在は、民間のバス会社によって、駅から派生するかたちで交通ネットワークを維持している。これらの現状と整合を図りながら、地域での実証実験を含め、計画を定めているところである。

なお、地域の方々の要望や実証実験の結果を踏まえた形で、バスやタクシー利用者に対し、運賃を補助する取組みを推進しており、これらを合わせ、公共交通の維持・充実を図っていく。

(委 員) バスを走らせるためには、道路が必要であるが、社会資本が整っていない場所もたびたびあるのが事実である。土地区画整理事業などとも連動させて考える必要があり、単なる交通政策にとどまらない取組みが必要であると思う。総合振興計画はあらゆることが網羅されているが、すべての施策を同時に実行できるわけではないと思うので、優先順位をつけることが大切である。

(都市計画課) 今後の交通施策については、地域の皆様からのご意見をいただきながら、検討を進めていきたい。バスに限らず、タクシーも含めた公共交通の取組みとして、まずは運賃補助の取組みを進めているが、これで完了ということではなく、地域の皆様のご意見をいただきながら、コミュニティバスや乗り合いタクシーなど、地域の実情に即した交通手段の導入・改善についても検討をしたいと考えている。

(委 員) 「課題」の中に、「内水氾濫が発生している地域がある」旨の記載を追加していただきたい。

(部会長) いまの意見は、大項目3-4に関することであるため、そちらの意見として取り扱わせていただく。

(委 員) 市政世論調査の調査対象はどのようなになっているか。

(事務局) 市政世論調査は毎年5,000人を対象に実施している。年齢や地域に偏りがないよう、調整した上で、無作為に抽出を行っている。

(委 員) 越谷市民は地域に愛着がある人が多いと感じる。これは、土砂災害や積雪による被害などが少なく、住みやすいことが実感にあるからだと思う。この点については、評価したい。

(委 員) めざす姿の「越谷に愛着を持ち、定住意向が高まっている」ための要素を作るために、固定化されたバス路線のみでなく、住民からのリクエストをかなえたリクエスト型のバス路線を整備することで、定着につながると考える。さらに、そのことも含めて市の魅力をPRすることが、魅力ある越谷市をつくる上で重要であると考えている。

(部会長) 委員の皆様を確認する。ただいまの件は、報告書に掲載する方向で進めてよいか。

(委 員) 異議なし

(委 員) サンシティの整備については、関心度の高い項目であるため、指標を設けた方がよいと考えるが、いかがか。

(南越谷にぎわい推進室) これまでの経緯を簡潔にお話すると、令和3年に越谷サンシティ整備基本計画を示したが、令和5年に今後の市の様々な大型事業や財政負担が重なることを踏まえ、一部計画を見直し、ホール棟のリノベーションを提案したところ、市民の方々から「今後の越谷サンシティのあり方に関する方針の決定の件」の請願が提出され、新たな整備方針は議決事項とすること、審議会を設けることが決まった。現在は、審議会を開催して、方針を策定するにあたっての答申作成に向け、審議している状況である。

指標については、現在、方向性が定まっていない中で具体的な指標を設定することは難しいことから、掲載していない。

(委 員) 整備に関する指標が設定できないことは理解した。ただ、整備方針に係る協議は丁寧に行っているのだから、考え方や進め方をしっかりアピールしていくことも必要だと思う。審議会としては、このような市にとってプラスとなる取組みの達成率を評価し、良い面を認めていくことも役割だと思うので、サポートすることができるよう、積極的なアピールを提案する。

②大項目3-2について

(委 員) 達成指標「都市計画道路の完成率」と「都市計画道路などの進捗よく率」について、

完成率と進ちょく率を使い分けている理由は何か。

(道路建設課)

現在、国が施行している東埼玉道路、県が施行している浦和野田線、南浦和越谷線、市役所通り線、蒲生柿木川戸線、その他市施行道路が5路線といった状況である。「完成率」については、国施行や県施行道路の整備を促進する意味で、道路の供用開始を要件としている。「進ちょく率」については、市の取組みを測る指標であるため、供用の有無に関わらず、施工が完了した道路の延長としている。

(委 員)

使い分けについては把握した。市民の方が見た際に容易に分かることが重要であるため、脚注等で分かりやすく記載いただくのがいいのではないかなと思う。

(委 員)

「幹線道路・生活道路の整備」について、平方地区の五差路など、交差点改良を行わないと交通安全上支障がある箇所が市内に複数あると思う。計画に交差点改良についても記載していくことが必要と考える。

(委 員)

道路の拡幅・改良は交通量調査等に基づき、計画立てて整備を行っていると思う。

(委 員)

個人的には、五差路を四差路にして、離れた箇所に交差点を設けるような大掛かりな整備を行わないと解決しない問題であると思っている。

(委 員)

平方の五差路については、確かに分かりにくい構造であると思うので、分かりやすい道路を整備していく必要がある。近隣市町には、スクランブル交差点もあるため、検証しながら進めていただきたい。

(部会長)

主に幹線道路では、事前に右左折して、通常の交差点となるよう設計されている道路を目にすることがある。また、交通事情については、地域によって差があると思うので、実情に即した整備を行うよう提言していく形としたい。

(委 員)

道の駅についての進ちょくについて教えてほしい。

(政策課)

令和4年度時点で概算費用の積算を行っており、総事業費が40億円程度と見込まれている。多数の大型事業を抱えている中で、捻出することが難しい金額であることから、民間の活力や国等の補助金を活用するなど、なるべく市の負担がかからない手法を検討している。

(委 員)

事業としては進んでいないということか。

(政策課)

現状は整備手法を検討している段階となる。

(委 員)

アリーナについて、現状レイクタウンが候補地とのことだが、流通団地内の越谷市場であれば、南越谷駅から徒歩圏内であり、5市1町で所有している土地があることから、費用分担した形で整備することができると思うがいかがか。

(政策課)

越谷アルファーズについては、BIプレミアムリーグに昇格するための要件として、5,000人以上を収容可能なホームアリーナの確保が必要といった状況である。令和6年3月にアルファーズ側から、越谷レイクタウン地内の市有地を使用したい旨の要望書を提出いただいた。市では、この要望を踏まえ、アルファーズとアリーナ整備について、民設民営を原則として、情報交換・意見交換を行っている。

(委 員)

レイクタウンに新たな集客地を設けるよりは、市の中心地である南越谷周辺へにぎわいをつくることが重要であると考えている。

(委 員)

道の駅については、道路施設に分類され、東埼玉道路の管理者である国の管轄であると思うが、その場合、国に整備を依頼するなどにより、市に負担は生じないというのは認識が違っているか。

(政策課)

国道に接している場合は、委員さんのおっしゃるとおりとなるが、今回の候補地は国道に接しておらず、県道に接している。過去に県と協議した際は、要件を満たせば道の駅としての指定は可能であるが、国の道路施設にはならないと回答を受けている。

③大項目3-3について

(委 員)

現在市では、水遊都市と銘打って人が集まり、にぎわいを創出するような取組みを

実施しており、評価したいと思う。私としては、さらに発展させ、「川でつながるまちづくり」を進めていくべきであると思う。河川法による制限もあると思うが、元荒川に「川の駅」を設立することを提案したい。鴻巣市から蓮田市、白岡市、岩槻区を通して本市に流れる元荒川を、それぞれの自治体でつながるようにできるといい。どの自治体も特産品があり、川の沿線のにぎわい創出が期待される。道の駅の話で出た国に整備を打診できないか、といった話と同様に、河川管理者である県に対して働きかけを行いながら進めてほしい。

(部会長) いまの意見は、水辺を生かした「川の駅」をつくるといいという意見でよいか。

(委員) そのとおりである。川のあるまち越谷において、川の駅構想によってにぎわいをつくりながら、水辺の防災も視野に入れ水害対策も兼ねることができればいいと考えている。また特産品の流通経路を確保することにもつながると思う。例として、吉川市のウナギやナマズなど、いい製品が越谷市で仕入れやすくし、盛り上げることができるという。

(委員) 川の駅が治水機能を兼ねる施設として、市を盛り上げるのであれば、私も賛成する。

(部会長) 全国でもあまり事例がないのであれば、本市のプロモーションとして効果的だと思う。いまの意見は部会として報告書に載せる方向でよろしいか。

(委員) 異議なし

(委員) 大吉の調節池や西大袋の調整池など、治水対策に大きく貢献している施設を整備いただいた。これらは、公園としても機能をもち、近隣住民の憩いの場にもなっていることから、他の場所でも整備を進めてほしい。

(委員) 増林の調節池の計画はどのようになっているか。

(下水道事業課) 国、県、近隣市が連携して、治水対策のプロジェクトを実施している。増林の調節池については、県が主体となり、新方川沿いに整備を進めている。これに合わせ、市の貯留施設を合築による一体整備で進めていく見込みである。

(委員) 79ページに生産緑地やパークPFIなどを記載して、水と緑でつながるまちを総合振興計画上でも示すことができればいいと考える。

(公園緑地課) 生産緑地については、所有者の協力を得て成立するものなので、行政計画の目標とすることは相応しくないと判断した。パークPFIについては、いい制度だと思っているが、検討中であることが多く、現時点では計画書に掲載することは難しいと判断した。

(委員) 生産緑地に関しては、人口減少や特定生産緑地の指定期間が終了すると減ってしまうことが想定されるため、緑の保全という観点からすると力を入れてもいい分野であると考えている。同様にパークPFIについてもいい制度であると思うので検討いただきたい。

(公園緑地課) 農地や河川敷の緑道など、公園に限らず緑地を保全していくという方針はもっているため、手法についても検討していきたいと考えている。

(委員) 元荒川緑道の整備進捗率という指標があるが、今後実施するのはここだけなのか。新方川緑道や古利根川緑道での取組みも指標に加えてほしい。

(公園緑地課) 緑道については、用水路を含めると17箇所あり、現在優先的に整備しているのが、元荒川緑道ということになる。新方川緑道については、令和4年度に完了としている。古利根川緑道については、形状的に緑道に通じる通路を整備することが難しいことから、整備については、検討中としている。

(委員) 北越谷における元荒川の桜並木については、樹齢の関係から維持が難しいと聞いているが、桜以外の緑化が可能であれば検討してほしい。

(公園緑地課) 北越谷の桜並木については、これまで本市の貴重な観光資源として皆さまに楽しまれてきたが、60年が経過し、木の高齢化が進んでいる状況である。このため、5年

前に調査を行った結果に基づき、5年に分けて伐採・選定してきた。管理者である県の総合治水事務所と2回ほど新規植樹について協議を行ったが、堤防の形状により、植樹するためのスペースを確保することが難しいと回答を受けているため、手を付けることができない状況である。今後については、周辺の都市公園等において緑化を推進していくこととしているためご理解いただきたい。

(委員) 元荒川の桜並木を調査した際は、樹木医による診断を行ったのか。再生は難しいのか。

(公園緑地課) 元荒川の桜並木については、樹木医に確認していただき、4段階に分けた。最も悪い部類のものについて今回伐採し、枯れかけている木については剪定という形をとった。今後についても樹木医による診断を参考にしながら、維持管理を進めていく。

(委員) 桜並木の辺りは道路拡幅の計画があったように思う。桜は枯れると根が空洞化するため、堤防の付近には植樹しない方がいいと認識しているが合っているか。

(公園緑地課) 都市計画道路浦和野田線については、桜並木の問題もあり、ルートについて検討していた時期もあったと記憶しているが、現在はルートが確定している。整備の具体的な時期は把握していないが、道路区域にかかる場合は、伐採しなくてはならないと考えている。この桜並木は、観光目的で民間人によって植樹されたものであるが、抜根する際は、堤防に影響を与えぬよう、慎重に県と協議する必要がある。

④大項目3-4について

(委員) 82ページ「公共下水道(雨水)」とは何か。公共下水道は污水のイメージがあり、内水氾濫対策になるとは思えないが、どのような理屈か。また、水害を現に受けている地域がある現状では、内水を貯める機能が必要である。先日、中川・綾瀬川流域において、浸透を阻害するような工事を行う際は、これに見合った施設を設置しなければならないという制度ができたというところは進展である。しかし、このような制度をつくらなければならないほど、越谷市では開発が続けられ、開発に係る法令には準拠していたとしても、結果的には内水氾濫対策が十分でなかったということである。田んぼであれば貯水できていたところが、宅地になることで、内水氾濫が増えるため、河川の改修やポンプ施設の増強を進めていただいている。これらの対策をしてもまだ足りない場合、それぞれの区画で内水を貯めていくことが必要であると思う。学校の校庭貯留という制度はあるが、周辺道路よりグラウンドが高いケースが見受けられ、効果が限定的だと思われる。今後は地下貯留施設の整備について検討いただきたい。コンクリート式の地下貯留施設は費用負担も大きいが、プラスチック製のものもあると聞いているため、参考にしてほしい。

(下水道事業課) 1点目の公共下水道については、本市は分流方式を採用しており、雨水と污水に分け、それぞれの計画により整備を進めている。公共下水道(雨水)は例としてボックスカルバートなどを敷設し、雨水を処理しているため、内水氾濫対策に寄与するものである。

(河川課) 2点目は82ページの小項目、雨水流出量の抑制についてのご意見と捉えているが、本市では、市内の学校の大半で校庭に一時的に貯留できる校庭貯留を整備している。また、調整池などの貯留施設を整備するほか、一定規模の開発に対しては、条例に基づき、雨水流出抑制施設の設置を義務付け、雨水流出抑制対策に努めている。

現在、本市が進めている貯留施設による浸水対策としては、老人福祉センターくすのき荘の南側に既存の調整池を深く掘り下げ、貯留量の増強工事を進めるとともに、せんげん台駅東口や増林地区で、雨水貯留施設の整備を進めている。

今後についても、既存調整池や公共施設の活用も含め、貯留施設の整備をさらに進め、浸水被害の軽減を図っていく。

(委員) 全国的に豪雨が発生すると車も自転車も歩行者も浸かってしまい、児童生徒が危険

にさらされてしまう。このため、幅員4メートル程度の道路であれば、市道と民地の境に砂利敷き区間を設け、一時的に貯水することで、冠水を遅らせることができるのではないかと。開発の指導によるお願いベースになると思うが、民地側で少しでも貯め、水の急流を防ぐことが重要である。

(部会長) 現状、市はどのようなことに取り組んでいるのか。

(道路建設課) 歩道については、雨天時歩きにくくなることを防ぐため、透水性舗装が基本となっている。車道については水たまりになりにくく、騒音の低減や安全性の確保につながる排水性舗装を採用している箇所もあるが、目詰まりを起こすなど、メンテナンスに難があるため、総体的な維持管理コストを加味しながら整備を行っている。民地側からの流出対策としては、繰り返しになるが、開発における指導を徹底することとしている。

(委 員) 越谷市は、時間当たり何ミリの雨量まで耐えられる設計になっているのか。

(下水道事業課) 1時間当たり約50ミリまでで計画している。

(委 員) 下水道管の長寿命化率と上水道管のHIVP管布設率が分かれば教えてほしい。

(下水道事業課) 下水道管については、老朽化率が約11%となる。

(部会長) 上水道については、事務局から後日回答してほしい。

(事務局) 承知した。

(委 員) 活動指標「雨水貯留施設の整備」について現状値が0箇所、目標値が1箇所としているが、先ほどの話を聞く限り、複数箇所で開催していくということなので、目標値を増やしてほしい。

(部会長) インフラ整備については、八潮市をはじめ、各地で下水道管の破裂などが発生しており、これまで表面化してこなかった課題が明らかになっている。特に地下に埋設された管路は、整備から数十年が経過しているため、今後は計画的な調査や改修が必要である。こうした取り組みについて、報告書に意見として盛り込みたい。

(委 員) 網目のように張り巡らされた公共下水道管をすべてチェックしてメンテナンスすることは難しいと思うが、安全のため、県の下水道管と接続する箇所などを重点的に対応してほしい。

⑤大項目3－5について

(委 員) 私は、埼玉県建築士事務所協会越谷中央支部に所属し、埼玉県内の各市町村で建築住宅相談を受けている。この相談制度をより多くの市民の方々に知っていただき、積極的に活用していただきたい。「空き家等正」「セーフティネット住宅」とあるが、人口減少、高齢者人口がますます増えていく中で、空き家をどう使うか、高齢者に貸すことができるのか、さらには用途変更なども視野に入れながら、セーフティネット住宅制度を高齢者が安心して利用できるよう、持続的な居住環境づくりについてさらに発展させていただきたい。

(建築住宅課) ご指摘のとおり、建築士会、建築士事務所協会にご協力いただき、住宅相談事業を実施している。空き家対策やセーフティネット住宅についても、需要が大きくなっていく事業と見込んでいるため、さらなる情報共有や周知に努めていく。

(委 員) 建築士会や建築士事務所協会のほか、宅建協会や専門家として医師会などが連携できれば、事業の進展に寄与できると考えられるため、市を中心に検討を進めてほしい。

(委 員) 空き家を自治会のサロンとして使うような方法も考えられると思うので、空き家が使える用途を広げていくと、空き家の有効利用につながると思う。

(委 員) 個人の住宅に対して行政がどこまで介入していくのかという問題があるため、この大項目にある指標の目標値については、妥当だと思う。特定空き家の解消数のような数値が出せるのであれば、指標とすることも考えられる。

質問だが、長期優良住宅に認定すると、3年間固定資産税の減免が行われ、市にと

ってデメリットもあると思うがいかがか。

(建築住宅課) ご指摘のとおり、税収の面ではマイナスもあるが、長期的にみれば、環境配慮型の良好な住宅を整備し、建て替えのスパンを長くすることによるメリットがあると考えている。

(委 員) 委員に聞きたいが、スクラップアンドビルドという考え方についてはどのように考えているか。

(委 員) 私の見解だが、我が国の歴史的に、住宅事情や災害、気候変動などの要因により、再開発においては、スクラップアンドビルドの考え方が基本となっている。地震が多い国では、リノベーションよりも短いスパンで新築を建てるのが安全であるという考え方があるが、これは根拠があるものではないと考えている。もし、新築住宅によらない住宅の供給システムが構築できるのであれば、空き家などが主流になってくると思うが、これまでの考え方や構造を大きく変えない限り、変わっていくことはないと思う。

3 その他

事務局から次回の審議会について説明を行った。

4 閉会

長野副部会長より閉会のあいさつ

以上